程は、前述のように昭和二三年に施行され、発足以来一七年のあゆみをもっています。国家や都道府県の施策、勤労青少年の旺盛な向学心、関係者の熱意によって着々とその成果を収め、昭和二八年には、国は「高等学校の定時制教育及び通信制教育振興法」を制定し、また、昭和三一年には、学校給食に関する法律を制定するなどして、定時制・通信制教育の振興に一段の力を加えています。現在、後期中等教育の拡充整備について、中教審で審議されておりますので、今後いつそういろいろな面で充実されると思います。

熊本の定時制、通信制高校

定時制課程・通信制課程を置いている高等学校は一八校です。（来年度から一校減ります。）本県で、定時制課程と通信制課程のある高等学校と募集定員は、別表のとおりになっています。

別表からもわかるように定時制課程は普通科一一校、工業に関する学科一校、商業に関する学科一校、農業に関する学科四校、通信制課程は、普通科一校で、協力校が七校あります。工業に関する学科には、機械科、電気科、建築科があり農業に関する学科では、農業科があります。在籍生徒数は、昭和四〇年五月の調査によりますと、普通科二、二二〇名、工業に関する学科四五四名、商業に関する学科六八六名、農業に関する学科五五二名、通信制課程の普通科一、三二四名で合計三、九一二名の勤労青少年が在籍しています。

授業の内容

授業の内容は、前にのべましたように全日制課程と全く同じです。卒業までに要する年限は、定時制課程は四年、通信制課程は五年ないし六年かかります。勿論、体育館や実験室、実験用具など施設設備の利用は全日制課程と区別ありません。

定時制の授業は、農業科の三校を除けば残りの全部が夜間で、明るい螢光燈の下で授業が実施されています。始業は学校によって多少の違いはありますが、午後五時三十分から六時の間で、四時間授業が行なわれていますので下校は九時三十分頃になります。農業科の昼間定時制の場合は、週に四日、または五日全日制課程と同じように朝から登校します。農繁期などは家庭実習なども熱心にやっています。

定　時　制

番号	校名	課程	昼夜	募集定員
1	南関高	普	夜	50
2	荒尾高	〃	〃	50
3	玉名高	〃	〃	50
4	阿蘇農高	農	〃	50
5	済々黌高	普	〃	100
6	熊本高	〃	〃	100
7	熊本商高	商	〃	150
8	熊本工高	工	〃	150
9	矢部高	農	昼	50
10	宇土高三角分校	普	夜	50
11	八代東高	〃	〃	150
12	八代東高坂本分校	〃	〃	50
13	人吉高	商	〃	100
14	水俣高	普	〃	50
15	球磨農高	農	昼	50
16	八代農高泉分校	〃	〃	50
17	天草高	普	夜	50

注　泉分校は昭和41年度から全日制になります。

通　信　制

18	第一高	校

通信制協力校

1	鹿本	高
2	阿蘇	高
3	矢部	高
4	人吉	高
5	芦北農	高
6	天草	高
7	牛深	高

クラブ活動もさかんに

クラブ活動は、学校によって異なりますが、だいたい次のようなクラブがあります。文化部では、文芸、図書、弁論、音楽、写真、家庭、生花、英会話、珠算、体育部では、バスケット、バレー、バドミントン、軟式野球、庭球、柔道、空手弓道、卓球などです。年に一回県下連合の盛大な体育祭と文化祭が開催されて、親睦を深めるとともに技を競います。また修学旅行なども学校によっては東京、京都、大阪方面や九州一周など毎月少しずつ積立てて実施しています。

卒業してから

進学について、どれくらいの人が、どんな大学に進んでいるかを、昭和四〇年三月卒業生について調べてみますと、熊本商大、東海大、大阪大、法政大、熊本短大などに約四〇名の人たちがそれぞれの大学に進学しています。

就職については、在学中に働いていた職場にそのまま働く人は別として、新しく就職を希望する人に対しては、係の先生がお世話をし、希望者の大部分は就職ができています。就職先は、個人商店から一流会社まで多岐にわたっています。また、就職しないで農業や商業を自営して成功し、指導的立場に立っている人もいます。

青年学級の実態と今後の方向

教育庁社会教育課

戦後の混乱の中にあって青年たちが教養の向上、職業や家事に対する知識や技術の習得をねがって自発的学習集団としておこった青年学級は、昭和二八年、青年学級振興法（以下振興法と称する）が施行され、国や都道府県の援助のもとに市町村が開設するにおよび、全国に普及をみたのである。

本県の場合、その数は最盛期であった昭和三〇年度の六〇〇学級からみるとかなり減少したとはいえ二〇〇学級をかぞえ、ここで学ぶ勤労青年の数は約一万人を越えている。

近来、勤労青年教育の重要性が各方面から強調され、これらに対する教育の場である定時制高校や、通信教育制度の充実がはかられるとともに、企業体等においても教育機関の整備充実に力を注ぎはじめている。この他にも勤労青年の教育の機関は数多く存在しているが、これらの機関に学ぶことさえできない青年もまた意外に数多く、存在していることは知らねばならない（後述）。前記青年学級に学ぶ一万人の青年はこのような人たちの一部だと考えられる。

したがって、近来、数の上からは減少をしめし、一部では行きづまりをさけばれはじめ、その存続価値すら疑われはじめている青年学級もまだまだ勤労青年教育の一環としての存在価値を失っていないばかりか、むしろ、現在の勤労青年教育機関の実情から考えると、今後ますます

元気に働らき、学ぶために

入学するには

定時制課程の場合は、出身中学校を経て希望する高等学校に入学願書を提出し学力検査を受けねばなりません。入学願書の提出は二月上旬で、学力検査は毎年三月に、全日制課程と全く同じ日に、同じ問題、方法で実施されます。学校によっては、志願者数が募集定員にみたなくて、第二次募集をするところもあります。通信制課程は、願書の提出は三月になっています。くわしいことは、中学校の担任の先生にお聞きするか、直接希望する高等学校に問いあわせるとよいと思います。

まず両親や中学校の担任の先生と相談して、理解のある職場を探すことです。入学してから、高等学校でも係りの先生がいて、職場をお世話しています。月謝、その他、学校に納める金額は毎月六百円から八百円位ですから住み込みで働けば、贅沢はできませんが通学にはあまり不自由はありません。熊本高等学校と済々黌高校では給食の施設がありますので夕食は安価でとれます。また、定時制の生徒には無料でパンとミルクの給食があります。母子年金、授業料免除、育英資金などの特典もあります。

昼働いて夜勉強することは決して楽なことではありません。肉体的にも、精神的にも相当な困難が伴ないます。しかし入学しますと学校には係りの先生や、校医さんがいて、定期的に健康診断をおこないます。健康については常に注意していますので、とくに不節制をしないかぎり普通の健康な人であれば心配はありません。病気による欠席や、退学はきわめて少くないようです。

医学博士も

A君は熊本大学補助員として働きながら学び、熊本大学の医学部に見事入学しました。在学中も育英資金を貰い、家庭教師をしながら大学院まで進み、優秀な成績で卒業し、昭和三五年に医学博士になりました。

B君は現在、熊本工業高等学校定時制の電気科三年生です。毎日朝早くから牛乳配達をしながら真面目に働き、夜は勉強するために定時制に通学して、自分の好きな電気の勉強を一生懸命して成績も優秀です。先般の労働省が募集した作文に応募して見事一等に入選し、労働大臣賞をもらいました。

働きながら学ぶ道について、高等学校の定時制課程と通信制課程について概略をのべました。本人にその意志と能力があれば働きながら学ぶ道はいくらもあります。勤労青少年の多くの人がこの門をたたき、より高い教養と技術を身につけることを期待いたします。